

巻之一「伏魔殿壊て百八の悪星世に出」

この展覧会は、葛飾北斎の読本挿絵作品の中で最長の巻数を誇る大作『新編水滸画伝』を専門的にご紹介する展覧会です。

『水滸伝』は中国明の時代に書かれた長編小説で、「三国志演義」「西遊記」「金瓶梅」とともに四大奇書のひとつに数えられています。宋の皇帝、徽宗の時代、盗賊団を率いる宋江を中心とした百八人の豪傑が梁山泊に集い活躍する物語を描いています。日本では江戸時代中期になると岡島冠山が翻訳した『通俗忠義水滸伝』をもとに多くの翻訳本が生み出されました。戯作者の曲亭馬琴・高井蘭山が編訳し、葛飾北斎が挿絵を描いた『新編水滸画伝』もその一つでした。

『新編水滸画伝』は文化二(1805)年から出版された九編全九十一冊からなる長編読本作品です。「画伝」とあるように、それまでの文字による翻訳本とは違い多くの挿絵が加えられたことにより各場面をイメージしやすく、また緊張感あふれる場面は読者を大いに楽しませました。中でも序盤の挿絵、伏魔殿に封印されていた魔物が放出される場面は北斎の大胆な発想力と構成力が見事に表現された一図です。放射状に放たれる光の中に群魔が潜み、それに驚く人々の姿がリアルかつ劇的に描かれています。

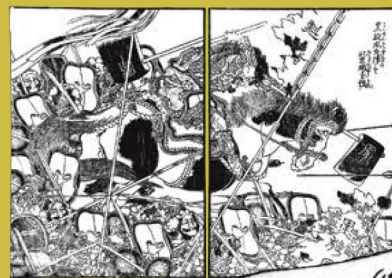
本展では水滸伝の壮大なストーリーを紐解く北斎の挿絵を多数展示します。馬琴や蘭山の文章を基に北斎によって視覚化された水滸伝の世界、そのキャラクターや情景をこの機会にぜひお楽しみください。



巻之六「大隊を呼びして都寺監寺盧智深を捉んとす」



巻之二十一「武松景陽岡上に大虎を撃」



巻之五十三「黒旋風先陣して北京城を伐」

『新編水滸画伝』の世界

-北斎と馬琴、あるいは「戯作」と「水滸伝」-

講師 板坂 則子先生(専修大学名誉教授)

11月26日(土) 午後2時

■会場：北斎館 映像ホール
■定員：25名(予約不要、座席先着順)



北斎館ご案内

- 開館時間
午前9時～午後5時(ご入館は午後4時30分まで)
※令和5年1月1日(日)は午前10時～午後3時まで
- 休館日
令和4年12月31日(出)
- 駐車場
北斎館駐車場(北斎館に隣接)
大型車・中型車2,000円、マイクロ1,500円、普通車400円(いずれも3時間まで)

- アクセス
- 電車ご利用の場合
JR長野駅「善光寺口」を出て長野電鉄特急約20分、普通約30分、小布施駅下車徒歩12分
- 車でお越しの場合
国道18号線「豊野」信号から約10分、上信越自動車道「小布施PAスマートインター」(ETC車専用)から約8分、「須坂長野東インター」から約20分、「信州中野インター」から約15分

